

第二次多摩市読書活動振興計画 有識者会議 令和6年度第三回 記録

日時：	令和6年12月19日（木）午前10時～12時まで
場所：	関戸公民館 ヴィータホール

開会前
<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より「SUUMO住み続けたい街ランキング2024（首都圏版）」の結果報告。 ・資料確認

1 計画策定における進捗確認について	
事務局	配付資料3-1「計画策定のスケジュールについて」に沿って説明。
委員長	事務局の説明に対し意見・質問はあるか。
委員	多摩市では通常、市民意見交換会はパブリックコメントの段階で素案を提示しながら実施している。パブリックコメント実施前の市民意見交換会実施となると、資料はどうなるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・以前の有識者会議で、全館で利用者懇談会をしてほしいと要望があったため、素案がかたまる前に意見をもらう。素案確定後は令和7年4月に市民説明会を実施する。 ・市民意見交換会の資料は未確定だが、策定委員会や有識者会議の資料をもとに作成予定。
委員	市民意見交換会では、策定委員会で確認が取れた資料を市民に広く公表してほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・第一回有識者会議でも確認したとおり、計画の策定主体は策定委員会であることから、有識者会議ではそれに対し意見を述べ、より良い計画を作り上げることを目標としたい。 ・資料に関しては事務局に任せることとし、この場では、計画決定前に市民からの意見をもらう機会が複数回設けられることを確認できたこととしたい。

2 外国人対象のアンケート結果について	
事務局	配付資料3-2「外国人対象 図書館に関するアンケート結果について」に沿って説明。
委員長	事務局の説明に対し意見・質問はあるか。
委員	外国語資料の提供に関して、多摩市が参考になる他市の事例があれば紹介してほしい。
副委員長	武蔵野市では、中央館では外国語資料を満遍なく収集・提供し、武蔵野プレイスでは「日本の紹介」というかたちで資料を提供している。
委員	立川市図書館の外国語資料の展示は参考になると思う。
委員	小平市でもコーナーを設け資料を紹介している。
委員長	アンケート回答者の内訳と、市の実際の外国人在住者構成との関係について聞きたい。
事務局	市の人口統計でも中国人が半数を占めており、中国・韓国・フィリピンの割合が多い。ベトナム、ミャンマー、スペインは市の人口統計上は「その他」となってしまうが、その中でもベトナムの割合が多いと聞いている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市の人口統計と同様に、中国人が多いことがアンケートにも反映されていること、この他把握しきれていない点もあることが分かった。 ・市民ニーズを把握することが計画の中でも挙げられているので、継続的にこのような調査に取り組んでほしい。

3 第四回策定委員会報告について

事務局	<p>第四回策定委員会について口頭で報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策２－３「一人ひとりの発達に合わせた適切なサービスの提供」について、「発達」という表現が発達障害を連想させる可能性があるという意見の一方、教育に関わる部署では違和感がないとの意見もある。 ・施策２－４「子どもに関わる施設・教育機関・団体・個人への協力・支援・連携」について、「教育機関」と表現すると小・中・高等学校も含まれるため、施策２－５「小・中・高等学校への協力・支援・連携」と重複してしまう。 ・施策２－５について、市立小中学校とそれ以外の学校では現在実施している取組み内容が大きく異なるため、施策を分けるべきではないか。 ・施策内容は、分かりやすさや取組みやすさを考慮し、もう少し大きい範囲で良い。
委員長	事務局の報告内容について確認したいことがあれば、質問・意見を受け付けたい。
委員	施策番号が枝番号ではなく通し番号に今回変更された。通し番号ではどの基本方針に対する施策であるか分かりづらいつと感じる。他の委員の意見も聞きたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・施策番号の分かりやすい示し方について、事務局は検討してほしい。 ・策定委員会からの指摘で現在の内容が詳細すぎるとあったようだが、それについて説明してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・策定委員会の資料では、配付資料３－７～１０「計画の構成について（基本方針①～④）」で「具体的な取組み」として現在挙げている項目も施策内容として記載しており、その点を指摘された。今回の配付資料ではそれらは修正している。

4 第二次多摩市読書活動振興計画の骨子案について	
事務局	配付資料３－３「骨子案 概要版」、３－４「体系図」、３－４－１「体系図 第２回有識者会議との比較」、３－５「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画との関係図」、３－１１「有識者会議委員 意見一覧」に沿って説明。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料３－１１は当日配付資料である。意見を提出いただいた委員から補足してもらいたいが、まずは他の委員から意見を募りたい。 ・詳細な内容は骨子案がかたまってから決まると思うので、まず骨子案について検討したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策９「一人ひとりの発達段階に合わせた適切なサービスの提供」について、「発達段階」と表現することで、丁寧なサービスをしてくれる印象を受ける。 ・施策１「だれもが利用しやすい環境の整備」について、子どもから「図書館に行った」と聞くことは少なく、保護者からは子どもを連れて図書館へ行くことへの懸念を聞く。保護者が安心して利用できる図書館を目指してほしい。
委員長	第二回有識者会議からの変更点もあるため各委員の意見を聞きたいが、特にないようであれば、事前に意見を提出いただいた委員から補足してもらいたい。
委員	施策１１「多摩市立小中学校への協力・支援・連携」について、変更前の「小・中・高等学校への支援・連携」に戻してほしい。これまで第三次子どもの読書活動推進計画を進めるなかで、都立桜の丘学園との連携や、図書館とボランティアによる私立学校への出張おはなし会といった積み重ねがある。市立小中学校の学校図書館システムと図書館システムの連携があるのは事実だが、それだけではない学校への支援・連携がわかるような文言にしてほしい。
委員長	施策１０「子どもに関わる団体・個人への協力・支援・連携」について、策定委員会時点で記載されていた「教育機関」という表現からの変更の整合性をどのように捉えれば良いのか、事務局に確認したい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・策定委員会の時点では施策２－４「子どもに関わる施設・教育機関・団体・個人への協力・支援・連携」、２－５「小・中・高等学校への協力・支援・連携」とそれぞれ表現していたが、施策２－４に「教育機関」と入ることで、施策２－５と区別しづらいとの指摘があった。また多摩市立小中学校とその他学校の支援・連携内容は実態として異なっており、一つにまとめると進行管理が難しいとの意見もあった。そのため多摩市立小中学校のみを抜き出すほうが良いと考えた。 ・施策１０の対象に幼稚園保育園その他の団体をすべて含めたい。「団体」の表現に変更したのは、図書館の利用者登録の区分は「個人」「団体」のみであり、それに合わせたためである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「団体」という表現は民間団体をイメージする。策定委員会時の「教育機関」の表現で問題はないと思う。 ・施策１０、１１のいずれも「協力・支援・連携」となっており、違いが分かりづらい。施策１１に小中学校と明記するのであれば、内容を詳細に記載してほしい。 ・市立小中学校も団体であることは変わりがないので、施策１０に統合し、取組み内容として特記すればよいのではないか。「施設・教育機関」の表現は残してほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には、市立小中学校を施策１０に含める必要があるとは考えない。 ・委員より、小学校の立場から意見をもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小中学校が団体に含まれるのであれば施策１０にまとめても良いと思うが、取組みの実態としては施策１１に区別されていて良いと思う。 ・学校図書館司書は市立図書館とは別で教育委員会から派遣されており、その中で学校図書館司書が市立図書館と連携している。他の団体と比較して特殊な状況であるといえる。 ・ほんともフェスタという市立小中学校の参加が必須である事業があることから、市立小中学校と他の団体をすべて同様に扱うのは難しい印象がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小中学校が一つの施策として挙げられることについては良いと思う。 ・委員の指摘のように、その他の学校が「団体」という表現では見えづらく、公立学校とその他と見えてしまうのは良くないと思う。
委員	<p>私立小学校を見学する機会があったが、図書館への予算のかけかたが違う。私立学校と図書館の関わりは、本の貸出ではなく、読み聞かせのような人的交流が多くなるように思う。一方市立学校には学習単元ごとに必要な図書を貸すといったように、図書館が提供するサービス内容が私立学校と市立学校では異なっていると感じた。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩市立小中学校に限定し、それ以外のものが零れ落ちてしまうことが論点のようである。 ・施策１０は「子どもに関わる施設・教育機関・団体・個人」の表現に戻したうえで、市立小中学校と図書館は同じ教育委員会の組織であることから、施策１１に項目として残してはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策１１は、項目出しせず具体的な取組みとしてのレベルで十分であると考え。施策１０に吸収するほうが、計画全体を見たときに総論的な施策として整理できると考える。 ・小中学校への支援か、学校図書館への支援かの整理をする必要がある。学校図書館と限定しなかったことから、それ以外への支援もしているという印象を受けた。
委員	<p>校長の立場としては、学校図書館への支援＝学校への支援と認識しているため、違和感はない。</p>
委員	<p>武蔵野市や日野市の図書館基本計画では「学校図書館」と表現されているが、それは図書館として学校そのものを支援することに違和感があるためという可能性がある。こうした事例も踏まえ、事務局には総合的に検討してほしい。</p>
委員	<p>「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」では「学校図書館」の表現があった。個人として</p>

	は、学校図書館の表現がよいと思う。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館だけでなく、図書館訪問や職場体験の受け入れなどの学校活動を図書館が応援するという意図であるならば、あえて学校図書館と限定する必要はないと思う。 ・施策10の文言は「団体」ではなく「教育機関」に変更すれば良い。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画は図書館の計画ではなく多摩市の読書活動や情報利活用についての内容だと理解している。その視点で記載したい。 ・施策10、11については、施策10を施策2-4の表現に戻しつつ、施策10が施策11に含まれるかについては行政活動によって判断されるであろうことから、事務局は他市の状況も比較しながらもう一度検討してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策3「若年世代(30代まで)の図書館利用の促進」の表現を「若年世代」から、世間一般に使われている「若年層」に変更してほしい。 ・施策2「図書館情報の発信や入手支援」の表現を「入手支援」から「利活用支援」に変更してほしい。 ・現在多摩市で、例えばコミュニティセンターや複合施設のあり方を考えるにあたってのキーワードは「地域協創」である。現在の多摩市全体の課題にも取り組む計画であると示すこともできるため、基本理念に「地域協創」を入れることを事前意見として提出した。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは基本理念に「地域をつなげる」という表現をつかっていたが、分かりづらいとの意見があったため変更された結果「つなげる」が削除された。 ・委員の意見にあった「協創」は「つながる」に通じるキーワードかもしれないため、これを組み込むことができれば、これまでの内容を引き継いだ新たな表現にできるのではないか。例えば「心豊かな地域」を「心豊かで協創する地域」など。 ・「教育機関」との関わりについては議論の余地があるが、それ以外についてはおおよそ委員の意見が反映されており、この形で進めて良いと考える。次の議事に入り、内容を検討したい。

5 計画の構成について	
事務局	配付資料3-6「計画の構成について」、3-7~10「計画の内容について(基本方針①~④)」に沿って説明。
委員長	各内容について議論する時間がないため、全体構成が適切であるか、各基本方針に含まれるものに抜けがないかについて、議論を進めたい。
委員	施策6「読書バリアフリーの推進」のなかで、地域共生が表現できれば良いと思う。計画の基本方針だけでなく、今後のキーワードになると思うが、高齢者や障がい者、生きづらさを抱える人も、誰もが過ごしやすい共生社会の実現を含めてほしい。
委員長	現在のことだけでなく、本計画を進めた先にある未来を見据えた表現ができると良い。
委員	素案構成案について、第2章「多摩市立図書館の現状と課題」に「多摩市立図書館50年のあゆみ」を入れてほしい。50年のあゆみのなかで現在の取組みに至っていることを示せると良いと思う。
委員長	未来についての指摘もあったが、その基盤となるのはこれまでのあゆみであるので、委員の指摘がどのような形で取り入れられるかは分からないが、事務局には検討してほしい。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章に1「前読書活動計画の取組みと成果」、2「図書館を取り巻く状況」が含まれているなか、第2章が「多摩市立図書館の現状と課題」という名称にしていることに違和感を覚える。第2章1と2のみを別に章立てしても良いと思う。章が多くなりすぎてもいけないが、検討してほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> 資料３－７～１０で基本方針に続いて黒枠内で書かれている文章の書き方、文章量、整合性が気になる。例えば基本方針②については、他の方針に比べ情緒的で、行政的ではないように感じる。他の基本方針とのバランスを取ってほしい。 各施策について「具体的な取組み」、「効果」という書き方をしているが、現在あげられている取組み内容は具体的とは言えず、効果が何を示すのかも分かりづらい。文言の整理や説明の追加をして、表を見て内容が理解できるようにしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 重要なのは、計画の読み手が誰かということである。多摩市や図書館事務局の内部事情は読み手である市民には分かりづらい。他市のように、参考データや他の施策との関連付けは後半にまとめたほうが親切ではないか。 他市と比較して不足しているのは、策定体制や経緯などの計画策定プロセスについての記載である。 ビジュアルを工夫することで武蔵野市や日野市のような、読み手にとってわかりやすい工夫をしてほしい。
委員長	市民に内容が伝わることは重要なので、それが達成できる構成、表現を検討してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 施策３の「若年世代（３０代まで）」という表現に違和感を覚える。年代を明記するのであれば、世代別の書き方にすれば良い。配付資料３－７冒頭の記載では「おおむね０歳から１８歳の高校生世代までは、基本方針②『一人ひとりの子どもに寄り添うサービス』で対応します」と書く一方、施策３の「図書館における主な取組み内容」に「赤ちゃんおはなし会の定期的な実施」が含まれているといった重複も、世代別にすることで解消できる。 基本方針は大枠で書かないとできることが制限されてしまうため、注意した方が良い。
委員長	計画の中で齟齬が生じる部分や、取り上げ方が異なる部分があるので、表現を整理してほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 若年世代を施策として取り上げることには、図書館利用が少ない若い方の利用を進めたいという意図がある。 「若年世代（３０代まで）」の記載は「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」の対象が３０代であること、他市の計画で「若い世代」と表現されていることに基づく。
委員長	各委員の意図としては、読み手にとってわかりやすい内容にするべきということだと思う。その点に注意してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんおはなし会やベビーカーの利用などについては、施策３ではなく基本方針②に入れたほうが良い。 ３０代の特徴を「乳幼児を連れた世代」と限定してしまうのは良くない。 配付資料３－５では「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」の内容を全て引き継いでいるように見えるが、実際は重点施策であった施策８「市立図書館の整備・機能の充実」と施策１２「職員の育成・研修体制の整備・情報交換」が基本方針②から抜けている。これらは今後も継続して実施する必要がある。 「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」の施策９【重点施策】「支援の必要な子どもたちへの取組みの推進」が次期計画では施策９「りんごの棚の充実」とされているが、施策９はそれだけで収まる内容ではないため、「支援の必要な子どもたちへの取組みの推進」という内容と記載してほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針②の中に本来見えるべき文言が見えづらくなっているという意見であった。 「第三次多摩市読書活動推進計画」を次期計画に取り込むとしているため、どのレベルで項目として取り上げをするのか、事務局には上手く構造化してほしい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配付資料3－8の施策番号は1～5ではなく通し番号の7～11に変更すべき。 ・ 配付資料3－7について、施策4「高齢者サービスの充実」の具体的な取組みである「図書館カフェの実施」は、高齢者支援に関わる内容であるのか疑問である。 ・ 施策13「多様な情報源を活用したレファレンスサービスの提供、充実」とされているが、図書館情報学としては、「情報資源」という言葉の使用が適切ではないか。 ・ 施策14「地域資料等の活用による課題解決支援や地域文化の継承」の具体的な取組み「行政資料について、切れ目のない継続な資料の収集、保存」は「切れ目のない継続的な資料の収集、保存」が適切ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複合施設に設置されている図書館はどのような方針で運営されるのかが示されていないと、市民からも言われている。次期計画内に方針を可能な範囲で記載してほしい。多摩市民にとって、図書館の今後は重要な関心事である。 ・ 第一回有識者会議の資料で、現行計画延長を教育委員会で決定した際、唐木田図書館と東寺方図書館について次期計画内で記載するとあったが、現状どこに記載されるのかが不明である。 ・ 2館の運営形態についてはこれまでの評価に基づくとと思うので、図書館としてはどのようにとらえているのかを聞きたい。 ・ 第二回有識者会議でも、各施策が何をもとに実施されるのかを示す必要があると発言した。アンケートや国の方針など、何をもとにした施策なのかを事務局内で整理し、市民などに問われた場合にきちんと説明できるように備えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複合施設である豊ヶ丘と東寺方図書館の2館の今後については、第2章2（3）「多摩市と多摩市立図書館に関する動向」や第2章3「多摩市立図書館の現状」（1）「各図書館の役割分担」に記載したい。中央図書館を核として図書館運営することは決まっているため、そのことを記載する必要があると考えている。加えて基本方針③「市民のしらべるを支え、役立つ図書館」の中で、各図書館の特色を個別に記載したいと考えている。 ・ 唐木田と東寺方図書館の試行的な運営については、施策18「各館の機能強化・運営体制の整備」で「東寺方図書館、唐木田図書館の運営体制の評価時期の決定」について記載したい。現時点では、この2館の試行的な運営について、市民に示せるほどの評価・検証ができていないのが現状。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事5の検討は以上とする。 ・ 有識者会議の回数が減少したこと、事務局から提示された案が十分ではないなか、たくさんの意見を頂戴したことに感謝する。 ・ 骨子案に関して、本日の会議である程度の共通理解を得ることを目標としていた。議事5で多くの意見が出たように、事務局には計画の構造を見直したり、文章を精査したりしたうえで、計画として活用でき、かつ市民へ伝わるものを作ってほしい。 ・ その際、「多摩市読書活動振興計画」および「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」の主要な部分が引き継がれているかの十分な確認が必要である。 ・ 現在から見た将来の課題が過不足なく盛り込まれている内容にしてほしい。 ・ 実施時期・評価指標の項目があることを念頭において計画を策定してほしい。 ・ 次回有識者会議は、1月開催の策定委員会および図書館協議会を経て、2月の開催となる。 ・ 本日の議論内容と本日欠席の委員の意見を、今後どのように聴取して計画を策定する予定か、事務局に確認したい。
事務局	<p>意見をいただくことを念頭に計画策定を進めていきたい。</p>

委員長	最後に次回以降のスケジュールについて、事務局から説明してほしい。
事務局	次回（第四回）有識者会議 令和7年2月18日（火）10時～12時 会場：中央図書館 活動室1

6 その他
該当事項なし。

閉会

事前配付資料

- 資料3-1 計画策定のスケジュールについて
- 資料3-2 外国人対象 図書館に関するアンケート結果について
- 資料3-3 骨子案 概要版
- 資料3-4 体系図
- 資料3-5 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画との関係図
- 資料3-6 計画の構成について（素案構成案）
- 資料3-7 計画の内容について（基本方針①）
- 資料3-8 計画の内容について（基本方針②）
- 資料3-9 計画の内容について（基本方針③）
- 資料3-10 計画の内容について（基本方針④）

当日配付資料

- 資料3-1-1 市民意見交換会のスケジュールについて
- 資料3-4-1 体系図 第2回有識者会議との比較
- 資料3-11 有識者会議委員 意見一覧